中学校給食

市教委がセンター調理方式の方針

自校・親子方式で安全な給食を早急に

市教委は中学校給食基本構想の初案を発表しました。

基本構想初案では、中学校給食をセンター調理方式で実施することを決め、１日６，０００食の調理数の給食センターを建設する方針です。

給食センターの建設に必要な敷地として５，０００平米から７，０００平米を目安として示し、土地を取得する計画です。

また、民間活力の活用を基本としており、給食センターの運営調理は民間委託される見通しになっています。

問題だらけのセンター調理方式

センター調理方式の特徴は、大規模な食数の給食を一カ所でつくることです。

そのため、食中毒などの事故が発生した場合、一気に拡散する危険があります。現に、一昨年にも和歌山県御坊市では、センター調理の給食を食べた生徒・児童約８００人が食中毒感染しています。

また、きめ細やかなアレルギー食対応もできません。

学校に給食センターから給食の入った食缶が運ばれるだけでは、給食を生きた教材として食の大切さを教える食育教育を進めるのにも限界があります。

福知山市給食調理センター
１日７，０００食の給食を、福知山市内の１７小学校、８中学校の１０台のトラックで配送しています。

いつから中学校給食は始まる？

初案では、令和５年度（２０２４年度）を中学校給食の提供の目標としています。

一方で党議員の質問に、市教委は「（センター建設用）土地の取得の目途は示せない」と答弁し、センター建設には土地が整地されてから設計や建設に「一般的に３年、４年かかる」としています。目標の年度までに給食が実施できる保証はどこにもありません。

また、市教委が中学校給食の実施を決めたのは２０１７年の１月であり、提供目標の令和５年度（２０２４年度）まで、実施を決めてから７年以上の年月を要するのは遅すぎます。

自校・親子調理方式が優れている

自校調理や親子調理方式ならば土地の取得の必要ありません。親子調理方式は、既存の小学校の給食室を改修することで実現できるので、早急に給食が実現できます。

実際に長岡京市では中学校給食をやると決めてから３年で親子調理方式での給食の提供が始まりました。

分散して給食を調理することから食中毒の拡散リスクも低く、アレルギー対応にも優れています。

子どもたちの近いところで給食を作ることで、調理過程や地産地消などの食育にも優れているのが自校・親子方式です。

日本共産党は、自校・親子調理方式で、安全な中学校給食を早急に実現することを求めています。

日本共産党宇治市会議員団
団だより
2019 年 11 月号
TEL：0774-22-3141

センター調理方式を採用する
宇治市の中学校給食の計画・試算

親子調理方式だと１０小学校の改修等に約９２億円かかると試算（検討委員会）
※すべての小学校の給食室を新築で建て替えるあり得ない想定で試算。
※１校約９億円の給食室で高すぎる試算

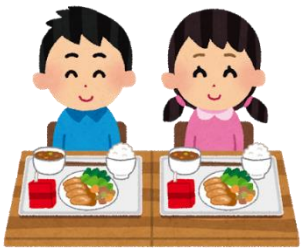
センター調理方式では給食提供まで土地を整備してから３年～４年かかる
※いまだに土地取得の目途もなし

親子調理方式を採用した
八幡市の中学校給食は

親子調理方式で３小学校を改修
４中学校で提供、費用は約６億３千万円
※３つの小学校の既存の施設を活用して改修。
※調理場は最新の衛生基準や設備に改修。
※わずか１年半で改修は完了。

２０１４年３月に中学校給食実施を決定。
～親子方式での実施を決めて準備～
２０１７年度に全ての学校で提供を開始。

中学校給食のパブリックコメント（市民意見の募集）が実施されます



市教委は中学校給食基本構想の初案を報告し、パブリックコメント（市民意見の募集）を開始しました。

①　パブリックコメントで声を届けてください

基本構想の初案に対してのパブリックコメント（市民意見の募集）で、ぜひ、皆さんの声を市に届けてください。

基本構想の初案とパブリックコメントの用紙は議員にお声かけいただければお届けします。また、公共施設にも配架されています。

②　パブリックコメントを呼びかけて下さい

子どもたちの大切な給食に関わる問題です。センター方式で実施されれば、小学校の給食にも影響がでてきます。ご家族やお知り合いに、ご意見を市に届けていただくように呼びかけて下さい。

※パブリックコメントは１１月１４日（木）から１２月１３日（金）までです。
※市教委への持参、郵便、ＦＡＸ、メールなどで提出ができます。

日本共産党は市民と力を合わせ

子どもたちの健やかな成長ために、温かく安全で
美味しい給食を、早急に届けるために、力を尽くします。